

令和6年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告目次

三恵会本部	1 ～ 2
特別養護老人ホーム きぼうの苑	3 ～ 4
障害者支援施設 あゆみ苑	5 ～ 6
ケアハウス 夢テラス	7 ～ 8
障害者支援施設 三恵ホーム	9 ～ 11
児童福祉施設 十全保育園	12 ～ 14
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	15 ～ 16
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	17 ～ 18
老人保健施設 希望の館	19 ～ 20
通所介護事業所 おいでんや	21 ～ 22
多機能型事業所 わくわくクラブ	23 ～ 24
地域子育て支援事業（ひろば型） にこちゃんパーク	25 ～ 28
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	29 ～ 30
グループホーム かがやき	31 ～ 32
児童福祉施設 中萩保育園	33 ～ 36
養護老人ホーム 慈光園	37 ～ 38

三 惠 会 本 部

令和6年度 事業報告

1. 経営方針

令和6年度は、社会福祉法改正後8年目となり、社会福祉法人に求められている「経営組織のガバナンスの強化」、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」について、経営の主体となる「理事」、「理事会」、「監事」、「評議員会」が有効に機能するよう運営を実施してまいりました。

「ガバナンスの強化」では、理事会を5回、評議員会を2回開催し、事業計画、予算、理事の選任、評議員の推薦、施設長の任免、用地取得、介護ロボット導入、大規模改修に係る契約、各種規程など重要事項に対し、審議・決議をしてまいりました。

「財務規律の強化」では、会計監査人の導入により、財務情報や社会的な信頼性の向上だけでなく、経営上の問題点も把握でき業務改善に有効に機能しております。令和6年度の事業活動収入は39億円（増収）、事業活動利益は3億700万円（増益）、当期最終利益は1億9,400万円（増益）と過去5年でいずれも最高額となりました。

経営方針として重要な指針となる中長期計画は現時点では策定に至らず、継続して検討をしていきます。社会情勢や福祉ニーズの変化に柔軟に対応するため、経営者を中心として、より広範な視点と多角的な意見を取り入れながら、実効性の高い計画策定を目指していきます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 要員適正化計画の策定

再生産コストを計算し、法人経営の継続に必要な資金を算出し拠点ごとの収入、人件費、利益額等の経営数値目標（案）の作成をする。

（結果）：継続して取り組んでいく。

(2) 中長期計画の策定

昨年度の継続。単年度だけの計画でなく、中・長期的な視点で経営判断していくことができるよう立案していく。

（結果）：継続して取り組んでいく。

(3) 処遇改善加算の一本化へ向けて

現在、介護事業・障がい福祉事業・保育所の処遇改善加算が各3種類あり、令和7年度に一本化される。処遇改善加算の配分ルールや算定要件など新たな処遇改善加算の詳細な内容について情報収集し計画を策定していく。

（結果）：計画を策定し、令和7年度より支給することができた。

(4) 人材確保の取り組み

①採用活動において、広報活動が重要となってきている。様々な方法を研究し利用率の高い媒体を活用して企業の情報を発信し、求職者に向けてアプローチしていく。

②安定的な法人運営のためには、職員の確保が必要不可欠である。対面だけでなく、学生が参加しやすいよう Zoom 等を活用したオンラインによるインターンシップ、企業説明会、面接等の実施。

(結果)：新卒者6名採用することができた。

③奨学金貸与事業により、介護福祉士・保育士を目指す学生に対し、就学に必要な学費の一部を奨学金として貸与することにより、優秀な人材を長期的に確保する。6年度は2名を目標とする。

(結果)：2名の学生が本事業を活用した。

3、研修計画

(1) 法人内研修

階層別研修（日本経営）

若手層向け研修

第1回 令和6年 6月24日 参加者 6名

第2回 令和6年 7月29日 参加者10名

第3回 令和6年 8月27日 参加者10名

若手層 フォローアップ研修

第1回 令和6年10月29日 参加者 8名

第2回 令和6年11月26日 参加者 9名

リーダークラス研修（ステップアップ）

第1回 令和6年 6月28日 参加者18名

第2回 令和6年 7月31日 参加者16名

第3回 令和6年 8月26日 参加者17名

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

きぼうの苑 令和6年度 事業報告

1. 運営の概要

令和6年度は、①稼働率アップと新規加算取得、新規利用者の獲得、②ICT化・IOT化の定着、③職員個々の人間力の向上（接遇面の向上）、④災害対策や感染症対策の強化、⑤職場環境の整備を目標として掲げ、取り組みました。

稼働率は、ほぼすべての事業所で目標数値に届きませんでした。加算の取得などにより、全体として昨年度よりも収入増という結果になりました。各部署や事業所での取り組みの成果は一応見られており、令和7年度も継続し努めてまいります。

【稼働率（目標→結果）】入所－97.0%→94.6% 訪問介護－800件以上→639件
短期－60.0%→53.8% 居宅 －105件 →104件
通所－80.0%→73.6%

入所と短期入所においては、インカム機器を導入し、職員の情報共有や業務改善に取り組みました。

職場環境の整備として、令和6年度に屋上防水・外壁改修工事を予定していましたが、令和7年度の事業で実施することとなりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

（1）「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
- ② ご利用者、ご家族、地域、関係機関等のニーズを把握し、提供するサービスの質の向上に努めました
- ③ 接遇面の向上に努めました

（2）「確実な知識と技術」の修得

- ① 施設内外の研修に参加し、得た知識や情報を全体に共有できるよう努めました
- ② 災害や感染症対策について、新しい情報を収集し、実践に近い形での訓練等を実施しました
- ③ ICT化・IOT化をさらに進め、業務の効率化や見える化に努めました

（3）「堅実な経営」への取り組み

- ① 目標数値の達成。また、部署や事業所ごとに収支のバランスを考えた上での取り組みを実践しました（考える力の向上）
- ② 欠員が出た場合の入所待機者の効率的入所と入院による空室期間の短縮に努めました
- ③ 職員へのメンタルヘルスケアの実施とハラスメントの防止に努めました
- ④ 老朽化した設備や機器について、収支の状況を見ながら修繕や更新をしました
- ⑤ 働きやすい職場の実現のため、職員の意見を反映し取り組みました

3. 研修計画

(1) 施設内

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

- 4月 感染症予防
 - 5月 虐待防止①
 - 6月 身体拘束廃止①
 - 7月 食中毒予防
 - 8月 リスクマネジメント①、ハラスメント防止
 - 9月 防災BCP①、防災シミュレーション①
 - 10月 虐待防止②
 - 11月 感染症BCP①、感染症シミュレーション①
 - 12月 身体拘束廃止②、褥瘡防止
 - 1月 認知症ケア
 - 2月 リスクマネジメント②、個人情報・プライバシー保護
 - 3月 感染症BCP②、感染症シミュレーション②
- *その他・・・救命救急など

(2) 施設外

老人福祉施設協議会関係 全国 四国 愛媛県 東予地区 新居浜市
各職種別研修

その他 ノーリフティングケア研修、ICT化研修
新居浜市福祉施設協議会、愛媛県社会福祉協議会主催の各種研修 他
*その他適宜選択し研修会等に参加

4. 行事計画 (年間)

- 4月 花見 家族会 屋外散歩
 - 5月 新緑ドライブ 機関誌発行 屋外散歩
 - 6月 外食 外気浴 菖蒲見学
 - 7月 七夕 バーベキュー ワークキャンプ
 - 8月 慰霊祭・盆踊り 防災訓練
 - 9月 敬老会 機関誌発行
 - 10月 太鼓祭り 社会見学 防火訓練
 - 11月 文化祭 紅葉見物 焼き芋
 - 12月 忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
 - 1月 お正月 初詣 新年会 機関誌発行
 - 2月 節分 バレンタインデー
 - 3月 ひな祭り ホワイトデー 防火訓練 いちご狩り
- *定期行事：お茶クラブ、ビデオクラブ、習字クラブ、誕生会、
各階でのレクリエーション 他

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流 (2) ボランティア活動 (3) 実習生の受入—令和6年度事業計画通り

障害者支援施設
あゆみ苑

あゆみ苑 令和6年度 事業報告

1. 運営の概要

令和6年度は、①稼働率アップと新規加算取得、新規利用者の獲得、②ICT化・IOT化の取組み、③職員個々の人間力の向上（接遇面の向上）、④災害対策や感染症対策の強化、⑤職場環境の整備を目標として掲げ、取り組みました。

稼働率は、生活介護において目標数値に届かず、令和6年度の介護報酬改定の影響もあり、収入減となりました。その他の事業所においては、昨年度よりも収入増となりました。

令和7年度では、各事業所での取組みをさらに進め、改善に向けて努めてまいります。

【稼働率（目標→結果）】入所－98.0% →99.0% 訪問介護－380件以上→412件
短期－50.0% →33.3% 相談支援－28件 →29件
生活介護－88.0%→83.8%

入所・短期入所、生活介護においては、入浴機器の導入により業務改善を図ることができました。ICT化・IOT化の取組みについては、令和7年度で継続し努めてまいります。

職場環境の整備として、令和6年度に屋上防水・外壁改修工事を予定していましたが、令和7年度の事業で実施することとなりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

（1）「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
- ② ご利用者、ご家族、地域、関係機関等のニーズを把握し、提供するサービスの質の向上に努めました
- ③ 接遇面の向上に努めました

（2）「確実な知識と技術」の修得

- ① 施設内外の研修に参加し、得た知識や情報を全体に共有できるよう努めました
- ② 災害や感染症対策について、新しい情報を収集し、実践に近い形での訓練等を実施しました
- ③ ICT化・IOT化を進めていくために必要な知識や技術のスキルを習得し、業務の効率化や見える化に努めました

（3）「堅実な経営」への取組み

- ① 目標数値の達成。また、部署や事業所ごとに収支のバランスを考えた上での取り組みを実践しました（考える力の向上）
- ② 欠員が出た場合の入所待機者の効率的入所と入院による空室期間の短縮に努めました
- ③ 職員へのメンタルヘルスケアの実施とハラスメントの防止に努めました
- ④ 老朽化した設備や機器について、収支の状況を見ながら修繕や更新をしました
- ⑤ 働きやすい職場の実現のため、職員の意見を反映し取り組みました

3. 研修計画

(1) 施設内（きぼうの苑と合同）

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

- 4月 感染症予防
 - 5月 虐待防止①
 - 6月 身体拘束廃止①
 - 7月 食中毒予防
 - 8月 リスクマネジメント①、ハラスメント防止
 - 9月 防災BCP①、防災シミュレーション①
 - 10月 虐待防止②
 - 11月 感染症BCP①、感染症シミュレーション①
 - 12月 身体拘束廃止②、褥瘡防止
 - 1月 認知症ケア
 - 2月 リスクマネジメント②、個人情報・プライバシー保護
 - 3月 感染症BCP②、感染症シミュレーション②
- *その他・・・救命救急など

(2) 施設外

身体障害者施設協議会関係

全国 四国 愛媛県

障がい者相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修、訪問介護協議会関係研修 等

*その他適宜選択し研修会等に参加

4. 行事計画（年間）

- 4月 花見
 - 5月 外出
 - 6月 外出、合同運動会、カラオケ大会
 - 7月 セタ、ビアガーデン、素麺流し
 - 8月 慰霊祭・盆踊り、夏祭り、料理
 - 9月 外出、観月会
 - 10月 地方祭、防火訓練、料理、帰省の奨励
 - 11月 文化祭、料理、芋ほり
 - 12月 クリスマス会、忘年会、餅つき、帰省の奨励
 - 1月 初詣、書初め、新年会
 - 2月 節分、料理
 - 3月 外出、ひな祭り、運動会、防火訓練、料理
- *定期行事：買い物、外食、誕生者外出、散髪
- *クラブ活動：習字クラブ、生花クラブ、カラオケクラブ等

5. 地域交流、ボランティア

- (1) 地域交流 (2) ボランティア活動 (3) 実習生の受入
令和6年度事業計画通り

ケ ア ハ ウ ス
夢 テ ラ ス

夢テラス 令和6年度 事業報告

1. 運営の概要

令和6年度は、①稼働率アップと新規加算取得、新規利用者の獲得、②ご利用者の生活環境の整備と運動等の促進、③職員個々の人間力の向上（接遇面の向上）、④災害対策や感染症対策の強化、⑤職場環境の整備を目標として掲げ、取り組みました。

稼働率は、目標数値に届きませんでしたが、申込者が増え、現在も待機者がいる状況に改善しました。

【稼働率（目標→結果）】入所—86.5% →80.3%

職場環境の整備として、令和6年度に屋上防水・外壁改修工事を予定していましたが、令和7年度の事業で実施することとなりました。

2. 重要課題と具体的な取り組み

（1）「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
- ② ご利用者、ご家族、地域、関係機関等のニーズを把握し、提供するサービスの質の向上に努めました
- ③ 安心安全で快適に過ごせる生活環境を支援しました

（2）「確実な知識と技術」の修得

- ① 施設内外の研修に参加し、得た知識や情報を全体に共有できるよう努めました
- ② 災害や感染症対策について、新しい情報を収集し、実践に近い形での訓練等を実施しました

（3）「堅実な経営」への取り組み

- ① 入退所を円滑に進め、空室の期間を短縮できるよう調整に努めました
- ② 新規利用者を確保するため、地域等への積極的な広報活動を行いました
- ③ 職員へのメンタルヘルスケアの実施とハラスメントの防止に努めました
- ④ 老朽化した設備や機器について、収支の状況を見ながら修繕や更新をしました
- ⑤ 働きやすい職場の実現のため、職員の意見を反映し取り組みました

3. 研修実施報告

(1) 施設内(きぼうの苑、あゆみ苑と合同)

① 三恵会本部主催

新人研修、新人フォローアップ研修、リーダークラス研修 他

② 自主研修

4月 防災BCP

5月 虐待防止①

6月 身体拘束廃止①、感染症シミュレーション

7月 褥瘡防止、ハラスメント

8月 リスクマネジメント①(外部講師)

9月 食中毒予防、防災シミュレーション

10月 感染症シミュレーション(外部講師)

11月 虐待防止②

12月 身体拘束廃止②

1月 リスクマネジメント②

2月 新型コロナウイルス感染症BCP(外部講師)

3月 防災BCP、個人情報保護

*その他-救命救急研修会等

(2) 施設外

① 老人福祉施設協議会関係-四国、愛媛県、東予地区の各研修会へ参加

② 社会福祉協議会関係-愛媛県、新居浜市の各研修会へ参加

③ 軽費老人ホーム協議会関係-四国ブロック研修会へ参加

4. 各月目標、行事計画(年間)

4月 ・お花見、外出

5月 ・外出

6月 ・外出

7月 ・七夕、バーベキュー

8月 ・慰霊祭、他施設交流

9月 ・敬老会

10月 ・秋祭り、外出

11月 ・文化祭、紅葉狩り

12月 ・忘年会、クリスマス会、餅つき

1月 ・新年会、初詣

2月 ・節分

3月 ・ひな祭り イチゴ狩り

*定期行事:買物クラブ、誕生会、茶話会 など

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流 (2) ボランティア活動 (3) 実習生の受入

令和6年度事業計画通り

障害者支援施設
三 恵 ホ ー ム

令和6年度 事業報告

障害者支援施設三恵ホーム

1 経営方針と現況について

令和6年度は、次回60周年に向け、「質の高いサービスと質の高い経営」の実現に職員が一丸となってさらなる努力をし、事業運営を行いました。

- (1) 施設入所支援、短期入所事業においては、利用対象者を身体障害者のみから3障害(身体、知的、精神)へと窓口を広げ、施設利用者の獲得に努めました。また、事業所間のネットワークづくりの効果も徐々に見られだし、利用者の稼働率も上がりました。

施設入所では早期満床を掲げ、近接目標を設定し取り組んだ結果、月平均63.2名(平均入院者数除く)、90.2%の稼働率となりました。

短期入所事業では月平均2.4名、59%の稼働率となりました。

相談支援事業では160名の契約者を確保しました。

どの事業においても目標値を設定し、職員が一丸となり取り組んだ結果、昨年度と比較し稼働率は上がりました。

今後も引き続き、行政や相談支援事業所に働きかけ、利用者の獲得に努めて参ります。

- (2) 職員のスキルアップ研修については、コロナ5類移行に伴い感染予防に努め、積極的に参加する機会を広げ、質の高い知識や技術の習得、事業所間ネットワークの構築が昨年と比べて多く出来ました。

- (3) 感染症対策や災害対応については、行政や地域との連携を一層強化すると共に、職員の感染対策や災害対応の意識を高めていくよう研修会等に参加することが出来ました。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①利用者の希望や願いを実現するため、利用計画の作成及び支援計画を作成し、共通の認識の下、支援を行いました。

- ②利用者ニーズを把握し、一人一人のライフスタイルに合わせた支援・個別ケアの充実を図りました。

- ③利用者の普段の状況を把握し、体調等の管理に努めました。

- ④利用者の自主性を尊重しながら機能訓練等への参加呼びかけをし、日常生活の維持を目指す支援を行いました。

- ⑤利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことが出来るよう相談支援を行いました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①施設外の研修会へ積極的に参加し、知識や技術の習得に努めました。

- ②施設内での研修、情報共有により、介護サービスの質の向上、人材の育成に努めました。

- ③医療事故等の防止に努め、医療技術、看護力等の質の向上に努めました。

- ④訓練の実施計画に基づき、適正な訓練を実施しました。

- ⑤相談支援について、定期的に評価を行い、常に改善を図りました。

(3) 「堅実な経営」への取組み

- ①行政機関、各種ネットワーク等と積極的に連携し、利用者の欠員補充に努めました。

- ②地域に愛され、信頼される開かれた施設づくりに努めました。
- ③利用者の人格と個性を尊重し寄り添い、信頼される施設づくりに努めました。
- ④機能訓練をより一層充実し、安心して利用できる施設づくりに努めました。
- ⑤行政や事業所等と連携を図り、相談利用者にとって必要な社会資源の開発に努めました。

3 研修計画

(1) 施設内

- ア 年間研修計画(毎月1回)に基づき、対面での研修、ICTの活用等で実施しました。
- イ 施設内研究と法人研究発表等に備え充実を図りました。

(2) 施設外

- ア 全国身障協職員研究大会(不参加)
 - イ 中・四国身障協施設長研修会(5月参加、翌年2月不参加)、事務管理研修会(10月参加)、中・四国支援職員研修大会(不参加)、中・四国職員研修大会(不参加)
 - ウ 県内身障協施設長研修会(5月参加、翌年2月参加)、職員研修会(10月参加)、サービス管理責任者研修会(11月参加)
 - エ 職種別専門研修会(参加)
 - オ 三恵会本部主催の職員研修(参加)
- 以上の研修会等にコロナ感染防止対策を行い参加致しました。

4 行事予定

- 4月 ドライブお花見(4月実施)、三恵ふじ祭り(藤の花鑑賞会として、4月実施)
 - 5月 愛媛県障害者スポーツ大会(4名、5月参加)
 - 8月 三恵夏祭り(花火大会)(地域交流三恵盆踊りとして再開、8月実施)
 - 9・2月 防災訓練(地震、土砂災害想定、火災夜間想定等)(翌1月・3月実施)
 - 12月 餅つき大会(12月実施)、クリスマス会(12月実施)、忘年会(12月実施)
 - 1月 新春ゲーム大会(中止)、鏡開き(1月実施)
 - 2月 節分豆まき(2月実施)、カラオケ大会(中止)
 - 4~12月 個別外出(7月~翌3月実施)
- 以上の行事を実施しました。

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ア 東温市身障協助会との交流(中止)
- イ 東温市内の保育園との交流(中止)
- ウ 重信中学校との交流(中止)
- エ 東温市仲間づくり事業との交流(11月参加)

(2) ボランティア活動

- ア 職員のボランティア活動
 - ・地区の春の井出清掃と秋の道づくり(春、参加・秋、不参加)
 - ・国道11号歩道生垣等の清掃 隔月1回(実施)
- イ ボランティアの受入れ(車椅子掃除等 受入)

(3) 実習生の受入れ

- ・河原医療福祉専門学校(受入) ・聖カタリナ大学(依頼なし) ・愛媛大学(受入)
- ・松山学院高等学校ほか(依頼なし)

以上の交流、受け入れ等を行いました。

兒童福祉施設
十全保育園

令和6年度事業報告

1. 経営方針

令和6年度も、人口減が進み、1950年以降、出生数が死亡数を下回る「自然減」が拡大し、最大の落ち込みとなりました。それらは、子育て環境・家庭の子育てにも大きく影響し、保護者の養育力の低下や児童の発達の問題等にもおよび、増々深刻になってきています。

実際の保育現場でも、発達が気になる児童がとて多くなってきました。放課後発達支援施設やはげみ園・発達支援課を利用する児童が増えました。なかなか取り組みにくい個人指導や発音指導を受ける機会をもつことができ、家庭・保育園での悩みや課題を保育園と施設の支援員・コーディネーター、保護者とお互いに連携し、ひとり一人の発達により適した保育を行うことを目指しました。その結果、少しずつではありますが、その成果が現れ、少しの時間なら落ち着いて活動できたり、自分の気持ちをきちんと伝えることができる等、成長が見られました。このことは、就学後の支援にもつなげることができ、他の児童に通じることもありました。保育士が保育を見直し、保育の質の部分を深めることができてきたように思います。この実践を大切に、職員ひとり一人が自分の保育を見直し、今後の保育に活かし、保育園全体として取り組めるようにしていきたいと考えています。

職員集団においては、行事等は、職員全員で意識して取り組むことができました。各職員がアイデアを出し、責任をもって行事を進める等、モチベーションを高め、仕事に対してのやりがいや達成感を味わうことができました。今後もひとり一人の人格を高め質の高い職員集団を目指して取り組んでいきたいと思っています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1)「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・感染予防の知識を活かし、消毒や換気を行い、児童・職員の体調管理を徹底した。特に体調管理については、その日の状況だけでなく、病気の経過や観察を細かく聞き取り、家庭の状況も把握するようにしていった。家庭への連絡を密にとり、子どもの健康状態の把握に努めた。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・発達支援課の巡回相談から、就学相談につなげ、サポートファイルを作成した。入学後も子どもの様子を確認している。
- ・発達面で気になる子は保護者に来園してもらい話し合い、専門家を交え、発達の課題を明確にしていった。
- ・放課後支援通所施設との連携を図り、発達についての情報・課題を共有し

ていった。

- ・保育園の行事の取り組み等により、園児ひとり一人の発達が促され、今までの保育の成果を確認していった。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上について

- ・キャリアアップ研修では、計画的にリモート研修参加することができ、普段、研修できない専門的な内容を学ぶことができた。また、研修後のレポートも制限のある中でまとめる作業を経験した。

②職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めた。特に栄養士は、食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができた。
- ・行事においては、連携・協力し合い、取り組むことができた。また、早めの取り組みで計画的に進めた。
- ・クラスの状況により、クラスを越えて、職員同士が助け合い、効率的な保育や業務を行う体制ができた。

(3) 「堅実な経営」の実践

- ・児童数に対して、適切な保育士の配置を検討し、その中で、いかに中身が充実した保育が行えるか意識した。特にチーム保育加算を取得し、経験を重ねた保育士が若い保育士をサポートし、保育内容を充実させていくことができた。
- ・消耗品の在庫管理を徹底し、無駄な備品の消費軽減に努めたまた、物価高騰を意識し、物品購入においてもよく考慮して購入していった。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会・先任者会・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会研修
キャリアアップ研修(リモート) 等

4. 行事实績(年間)

- 4月 健康健診
- 5月 野菜苗植え・種まき・歯科健診
- 6月 保育参観
- 7月 七夕会・プール開き・就学相談・夕涼み会ごっこ・(園内)・就学相談
- 8月 プール大会
- 9月 敬老の日にちなんでのハガキ投函
- 10月 運動会・お祭り集会(園内)・交通安全教室
- 11月 マイントピア別子遠足(年長児)・七五三・職場訪問(消防署、西原郵便局)
歯科検診・巡回相談・遠足(乳児・幼児)
年長児やすらぎの文化祭参加
- 12月 火遊び防止教室・もちつき・クリスマス会・健康診断・巡回相談・保育参観
- 1月 新居浜ネットワーク「もうすぐ一年生」撮影
- 2月 節分・生活発表会(たのしいあつまり)・年長児お茶会
- 3月 交通安全教室
乳児遠足・お別れ遠足(園内)・お別れ会・卒園式

(毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

※ 保育実習

(京都女子大学・東雲短期大学)

※小児看護実習

(十全看護学校)

※体験学習

(新居浜西高等学校・新居浜南中学校・新居浜西中学校)

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

令和 6 年度事業報告

1. 経営方針

令和 6 年度は安定的施設運営をはかるため組織再編と役職者の指導強化・推進を主目標としておりました。施設部門・在宅部門に各々部門長を置き部門内での連携や資質の向上、日常業務の見直し、職員への確かな指導は個別に面談の実施、部署会を定期的開催し概ね達成できてきました。働きやすい職場作りを図り活発で風通しの良い施設運営何事にも柔軟に対応できるような職員の養成については継続して次年度も継続して行うようにします。

事業年度末を迎え運営結果として、各業種とも当初の目標稼働率は入所・短期入所 89 %に対して 90.4%にて達成、通所介護は目標稼働率 82 %に対して 71.17%と未達成となりました。入所・短期入所については入院者の減少と短期入所の安定した利用が増員に繋がりました。通所介護については令和 6 年 9 月頃より市内全域で利用者の減少が見られはじめ、それに伴い月 2 回以上営業を行い、徐々に回復傾向がみられるため今後も継続して営業活動をおこなってまいります。

居宅介護支援事業所は活発なサービスの展開を基本とし一人当たり各月 60 件の訪問件数を目標としておりましたが、上回っている月もありましたが 1 年間毎月上回る事は出来ませんでした。次年度も受け身の運営ではなく積極性のある運営を行っていきたいと考えております。

2. 重点課題、具体的な取り組み

(1) 誠実な福祉

・情報の共有と確実な伝達

⇒情報の共有は各職種間概ねできています、継続して情報の共有の強化に努めてまいります。

・基本に基づいた確実な介護と看護の提供

⇒看護・介護他が連携を取り基本に基づいた看護・介護の提供ができました。

(2) 確実な知識と技術

・職場内研修の充実と実行

⇒年間通して質の高い内容での勉強会を開催しレベルアップを図りました。

(3) 堅実な経営

・当初予算の必達

⇒目標に掲げていた事業収入 5 億円越えは達成いたしました。

施設整備として中古車 2 台購入、南館 2 階空調交換、北館床の張替えを行いました。

・在宅部門収益の強化と原価意識の醸成

⇒通所介護は稼働率の目標数値を下回り営業行い稼働率アップに努めました。

3. 研修計画

(1) 施設内研修

⇒部署別研究発表：全体会開催時に実施しスキルアップを図りました。

⇒外部講師による勉強会：2回実施しました。(AED研修・感染症研修)

(2) 施設外研修

⇒老施協主催研修会への参加：一部参加しスキルアップを図りました。

4. 行事予定

◎施設…観月会、敬老会、Xmas会、忘年会、餅つき

注意：新型コロナ収束後、検討の上開催

⇒観月会、餅つき以外は実施できました。

◎デイサービス…4月～お花見、5月～藤・つつじ見物、6月～菖蒲・あじさい見物

7月～作品作り、8月～おやつ作り、9月～敬老会、10月～運動会、11月～紅葉狩り、12月～Xmas会・忘年会・餅つき・しめ縄飾り、1月～初釜・初詣、2月～梅見物
節分、3月～雛祭り

⇒おやつ作り、餅つき、しめ縄飾り、初釜以外は実施できました。

5. 地域交流、ボランティア、実習生

地域交流…夏祭り、敬老会、餅つき、太鼓台訪問交流

⇒夏祭りは規模を縮小し（ハート単体）利用者、家族をメインに実施しました。

敬老会、太鼓台訪問交流は実施できました。餅つきは実施していません。

ボランティア

年5回の地域清掃、中学生ワークキャンプ

⇒地域清掃（年2回）実施 中学生ワークキャンプは実施していません。

実習生受け入れ新居浜南高等学校、十全看護学校

⇒新居浜南高等学校受け入れ、十全看護学校は受け入れなし。

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

令和 6 年度 事業報告

リハビリステーション三恵荘

1. 運営の内容

令和 6 年度は稼働率の回復、スピード感を持った対応に心がけ活動をしてまいりました。稼働率の回復については目標値に届かない結果となりましたが営業活動を強化した結果、入所、通所ともに延利用者数の増加、収益の増加となり安定的な運営ができたと考えています。入所につきましては新規利用者数、在宅復帰者数ともに前年度を上回る結果となりました。老人保健施設らしい活動ができたと考えています。

利用者処遇につきましては約 6 年ぶりに外食行事や夏祭りを開催するなど、感染症流行前の状況に近づける事ができたと思います。利用者の喜ぶ姿が印象的でした。

労働環境につきましては積極的な採用活動を行ってまいりましたが、離職こそ少ないものの十分な人員補充は出来ておらず次年度への課題となっております。

施設整備につきましてはエレベーターの更新工事を行いセキュリティ対策を強化いたしました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 誠実な福祉

- ① 基本的な感染対策の継続にて安定的なサービスの提供を行う。
⇒施設内での感染症対策を実施し安定的なサービスの提供に努めました。
- ② 「個別対応」に重点を置き、利用者が満足度の高いケアプラン、リハビリ計画等となるよう多職種連携にて見直しサービスを提供していく。
⇒利用者、家族とのカンファレンス、適宜の報告にてニーズに沿ったサービスの提供に努めました。

(2) 確実な知識と技術

- ① 施設外研修への参加を促進し職員の知識と技術の向上を図る。
⇒感染状況に応じての研修会への参加やオンライン研修への参加を行いました。
- ② 研修等にて習得した知識を施設内勉強会にて情報共有し職員レベルの底上げを図る。
⇒定期職員会での情報の共有を行いました。

(3) 堅実な経営

- ① 稼働状況、収入状況に応じて人材を補充し確実な収益を確保する。
- ② 安定的に加算を算定し収益増大に努める。
⇒新たな加算の取得（科学的介護推進体制加算）にて収益増加となりました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

法人による新人研修、定期的な自主研修（各職種分担）

(2) 施設外研修

愛媛県老人保健施設協議会各種研修会、通所リハビリテーション研修会、ユマニ
チュード基礎研修等

4. 行事实績

⇒入所、通所リハビリテーションともに市内の感染状況に応じて一部は中止、可能な行事
については感染症

5. 地域交流、実習生、ボランティア

①地域交流

地元太鼓台の訪問、大生院・中萩校区文化祭、ふれあい夏祭り
ピンピンきらり体操、大生院地域食堂参加

②ボランティア受け入れ

中高生ワークキャンプ他

③実習生の受け入れ

学校等：新居浜南高等学校、河原医療学院 等

老人保健施設
希 望 の 館

令和6年度 事業報告

老人保健施設 希望の館

1. 経営方針

令和6年度事業計画で掲げた「25 years ～新時代へ～」 「数値目標」について取り組んだ結果を報告します。

(1) 入所部門（入所・短期）

入所については目標稼働率 91.5%（補正後）に対し、実績 91.6%。短期入所については目標稼働率 1%（補正後）に対し、実績 0.9%となりました。11月のコロナウイルス感染症クラスター、12月のインフルエンザクラスターによる稼働率低下が大きく影響し、当初の目標である 95%（入所 93.5 名・短期 1.5 名）を下回る結果となりました。

超強化型での算定については、ベッド回転率で苦慮した 10 月・11 月・12 月を除いた 9 ヶ月算定をおこなっています。

LIFE 加算の栄養マネジメント強化加算・リハビリマネジメント計画書情報提供加算・科学的介護推進体制加算・褥瘡マネジメント加算・排せつ支援加算については、12 ヶ月算定をおこなっています。

(2) 在宅部門（居宅・通所リハビリテーション）

居宅介護支援事業所については、目標件数 142 件（補正後）に対し、実績 143.9 件となりました。5 名体制でスタートしましたが、入院件数の多さが影響し当初の目標である 166 名を下回る結果となりました。希望の館への新規入所紹介は 13 名、新規通所紹介は 16 名となっています。

通所リハビリテーション事業所については、35 名定員の目標稼働率 70%（補正後 24.8 名）に対し、実績 72.3%（25.3 名）となりました。通所リハビリテーション事業所でも 1 月に発生したインフルエンザクラスターが影響し、当初の目標である 74%（26 名）を下回る結果となりました。

LIFE 加算のリハビリテーションマネジメント加算・科学的介護推進体制加算・栄養アセスメント加算については、12 ヶ月算定をおこなっています。

結果として、3 事業とも補正後の稼働目標は上回ったものの、感染症クラスターが影響し目標の修正が必要な状況となりました。稼働の安定に「感染症」が大きなポイントとなっており、令和7年度は当初目標が達成できるよう施設全体で努力して参ります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ・高齢者虐待防止に向けた職員研修の実施 → 年 3 回実施
- ・感染、災害が発生した場合の業務継続に向けた取り組み → 各年 4 回実施
- ・LIFE（科学的介護情報システム）への取り組みによる介護サービスの質の向上
→ LIFE については予定通り算定

(2) 「確実な知識と技術」の習得

- ・さらなる在宅志向に向けた在宅復帰支援の継続と地域貢献事業の実施

- 令和6年度の在宅復帰16名・看取り28名
- ・オンライン研修や外部講師による職員研修の充実
 - 予定通り実施（オンライン研修・歯科衛生士による職員研修等）
- ・認知症ケア関連資格の取得・リーダーの養成（認知症介護実践者研修他）
 - 認知症実践リーダー研修1名・認知症チームケア推進研修4名受講済み
- (3) 「堅実な経営」への取り組み
 - ・LIFE加算の算定、ICT導入によるペーパーレス化の促進
 - LIFE加算は予定通り算定・介護ソフトを活用した電子供覧化実施
 - ・介護報酬改定にともなう新加算算定の取組・利用料金等の見直し
 - 認知症チームケア推進加算Ⅱ・通りハ口腔栄養スクリーニング加算Ⅱ
初期加算Ⅰの算定開始
 - ・協力医療機関との連携体制の構築（3年計画）
 - 十全医療学院附属病院との協定取り交わし済・他機関との協定締結継続

3. 研修

- (1) 施設内 → 予定通り実施
- (2) 施設外 → 予定通り実施

4. 行事計画（年間）→ 感染対策をとりながら実施・やかた祭りでは一部家族参加

5. ボランティア・実習生

- (1) ボランティア受入状況 → 車椅子清掃ボランティアのみ限定的に実施
- (2) 実習生の受入状況 → 予定通り実施

通所介護事業所
おいでんや

令和6年度 事業報告

通所介護事業所 おいでんや

1、経営方針

『利用者に喜んでもらえる・選んでもらえるサービスの提供』と掲げた目標の下、桜・バラ・菖蒲・コスモス・紅葉・初詣・梅の花の見物など、季節を感じるドライブや、春と秋年2回の個別外出を実施して、利用者の楽しみ・気分転換・意欲の向上を提供してきました。

体験利用に来てくださった19名の方にも1日の流れや活動プログラムを丁寧に説明し、12名の方に選んでもらえて引き続き利用していただけるようになりました。

2、重点課題

稼働率の向上

- 1)数値目標 …… 1日あたり20名以上の利用を目指していましたが、9月以降、新型コロナウイルスの影響や繰り返す入退院、長引く入院などの利用者が多く、目指していた数値には届きませんでした。

(結果 1日あたり18.5名)

- 2) 今年度は、月2回の居宅介護支援事業所訪問に加え、年度の後半にはなりましたが、館長と共に3ヵ月に1度の割合で、今までお付き合いのなかった市内約25カ所の居宅介護支援事業所を訪問し、空き情報であったり、機械浴の設備を備えていること、翌月の行事予定表を配布することで『多喜浜:おいでんや』の存在を知っていただく活動にも取り組んでしました。

その甲斐あってか、年が明けた2月頃から機械浴対応希望の利用者2名の獲得にも繋がりました。

3、研修実績

- 1)施設内研修 全体会 フロア会 多くの職員が参加しました。

2)施設外研修

認知症実践者研修に申し込みましたが、抽選に漏れて受講できませんでした。

4、年間行事

4月	5月	6月	7月
・お花見 (ドライブ含) ・個別外出	・ドライブ ・個別外出	・菖蒲見物	・七夕まつり
8月	9月	10月	11月
・夏まつり(合)	・ドライブ ・避難訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・紅葉見物 ・個別外出
12月	1月	2月	3月
・クリスマス創作 ・忘年会	・初詣 ・書初め	・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・避難訓練 ・カラオケ大会(合)

※ 毎月開催行事 … ミニドライブ
音楽療法(ピアノ・三味線演奏)
おやつ作り

多機能型事業所
わくわくクラブ

令和6年度 事業報告

多機能型事業所わくわくクラブ

1. 経営方針

多機能型事業所わくわくクラブは、小学生から65歳までの障害を持たれた方が、生まれ育った地域で生き生きと地域生活を継続し、社会参加を果たしていけるようサービスの充実を図って参りました。障害の重度化や高齢化、様々な障害特性に応じたニーズの多様化に対応できるよう、職員の介護技術・資質向上に励み、利用者に寄り沿った支援の提供に努め、利用者及び家族の地域生活継続への想いに細やかに寄り添える事業所、選択される事業所を目指してきました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 稼働率の向上

生活介護事業

- ・利用者様の安定的利用にむけ関係機関との連携を図ると共に、相談支援事業所を訪問し広報活動を積極的に行うなど、新規利用者受け入れに力を注いできました。新規利用者獲得に関しては新卒者1名、中途契約2名、計3名の方と契約を交わし、ニーズに添った受け入れを行ってきた事で目標の16.5名の目標には一步届かなかったものの、一日平均16.3名という結果となりました。

放課後等デイサービス

- ・相談支援専門員・他事業所との連携、また保護者同士の繋がりを軸に新規利用者の受け入れを強化し、1日平均9名の利用を目指しました。新規2名の受け入れ、他事業所との調整を行い、既存利用者の日数を増やしましたが、1日平均5.5名という結果になりました。ただし、令和7年度の1年生を3名獲得しました。

(2) 支援内容の充実

① 重度化・高齢化への対応

- ・幅広いニーズに柔軟に対応できるよう関係機関との連携を図り、それぞれが安心して利用できる環境を整えられるよう努めてきました。
- ・日々の状態変化への気付きなど、職員間での情報共有を積極的に行い、個々の障害特性に寄り添った支援の提供を心掛けました。

② 多様な活動の場の提供

- ・一人一人が自らの能力を最大限に発揮できるよう活動内容の充実を図って参りました。また、希望者には働く事を通じて社会参加の場を提供。工賃アップを目指す事で働く喜びを実感して頂けるよう努めました。放課後等デイサービスにおいては、個々の才能を最大限に引き出し「表現できる喜び」を体感できるプログラムの提供に努めました。生活介護事業所や、館内の他事業所との交流を図り、幅広い活動の場の提供に努めました。また、他の放課後等デイサービス事業所との交流行事も実施しました。

③ 社会参加の促進

- ・散歩・清掃ウォーキングでの美化活動を通じて、地域交流の促進に努めると共に、作品展等の地域でのイベントに参加、施設外での食事や買い物訓練を通じて、利用者がより豊かに社会参加出来るよう努めました。また、作業参加を通

して様々な人・企業との繋がりを大切にし、社会との繋がりを感じて頂けるよう努めました。

④ 感染症・災害対策の徹底

- ・新型コロナウイルスをはじめインフルエンザ等の感染症予防対策及び、自然災害に備えた取り組みを実施し、安全・安心して利用できる環境を整えて参りました。

(3) ネットワークづくり

- ・生活介護事業所においては昨年に引き続き家族交流会を開催し、利用者・家族・職員間で交流を図り、相互理解を深める事が出来ました。また、利用者のより豊かな社会参加実現にむけ、関係機関との連携を図ってまいりました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・フロア会
- ・施設外研修で学んだ内容を、事業所内伝達・共有に努め、必要な知識やスキルアップを目指しました。

(2) 施設外研修

- ・福祉施設職員として資格取得や毎日の支援の根拠となる知識・技術の習得に努めました。

4. 年間行事

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・河川敷での運動 ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ	・マイントピア別子 ・医師の健診 ・移動動物園見学	・菖蒲見学 ・おやつ外食 ・買い物練習 ・じゃがいも販売	・七夕 ・公園 ・福祉の集い(展示) ・買い物練習 ・他事業所交流(放)
8月	9月	10月	11月
・水遊び ・事業所間交流(アイス屋さん) ・医師の健診 ・感謝祭(合同行事)	・ゲーム大会 ・芋ほり(さつま芋) ・おやつ作り ・消防訓練 ・敬老の日の交流	・テイクアウト ・地方祭 ・公園外出 ・生き生きフェスティバル(展示)	・看護学生実習受け入れ ・やすらぎ文化祭 ・公園外出 ・医師の健診
12月	1月	2月	3月
・イオン作品展 ・放課後等デイサービス一日外出 ・クリスマス会 ・年末大掃除	・初詣 ・書初め ・ドライブ ・レクレーション ・実習生受け入れ	・節分 ・ドライブ ・テイクアウト ・医師の健診	・家族交流会 ・ひな祭り ・消防訓練 ・カラオケ大会 ・お花見

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用を実施。

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

令和6年度事業報告

地域子育て支援拠点事業 にこちゃんパーク

1. 経営方針

一人一人の人権を尊重し、対話を密にして安心して過ごせる場を提供し、信頼される施設として、利用して頂けるよう努めました。

(1) 交流の場と居場所の提供

妊娠期の方や、概ね3才未満の子育て中の親子が気軽に集い、親子同士の出会いと交流を通して、子ども達が自由に遊んだり、家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごせる場を提供しました。

(2) 子育て相談

育児に対する不安感・負担感などを理解し、身近な相談相手として、子育ての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、支援しました。

(3) 情報の共有

市役所のこども未来課や保健センター（すまいるステーション）、他の子育て支援拠点施設との連絡会を通して、子育てに関する情報の共有に努めました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ・週4日、月・火・木・金曜日（祝日、お盆、地方祭、年末年始を除く）を開所しました。
- ・子育て中の親子の出会いと仲間づくりの援助を行いました。
- ・安心して遊んだり、自由に、かわり合える場の提供をしました。
- ・施設内の通所介護事業所・多機能型事業所との館内交流を図りました。

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・利用者の悩みに寄り添い、話に耳を傾けて、受容的・共感的態度で接しました。
- ・子育ての悩みを理解し、その軽減や解決に向けた方法を共に考えました。
- ・妊娠中～産後ケア、発育などについて助産師さんによる相談会を毎月実施しました。
- ・すまいるステーションを紹介したり、こども未来課と連携をとり、必要な情報を提供しました。
- ・子育て親子への対応に十分配慮し、知り得た個人情報について守秘・保護に努めました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・毎月の行事予定表（にこちゃんだより）を発行し、配布しました。
- ・市内の子育て支援拠点施設や子育て支援センター、児童館や児童センター、子育てサークルなどの予定表を掲示したり、保健センターやこども未来課からのプリントを配布し、さまざまな地域情報をお知らせしました。
- ・子育てに関する新聞記事や、地域の行事、講演会などの紹介しました。
- ・子育て支援情報等を掲載した子育て応援ブックを説明し、配布しました。

(4) 子育て・子育て支援に関する講習等の実施

- ・子育て中の親子のニーズを把握して、講習を計画し、実施しました。（すまいるステーション、プチ出前講座）

- ・ボランティアによる活動を計画し、定期的に来て頂き、実施しました。
(お話会・親子でヨガ・ハーバリウム作り など)
- ・季節感のある、おもちゃ作りやあそびを紹介し、実施しました。
- ・誕生会で誕生児の手形と写真を撮り、手作りの誕生カードを作成、記念にお渡ししました。
- ・身体測定(身長・体重)を行い、成長の喜びを共有しました。

(5) 新型コロナウイルスなど、さまざまな感染症の感染防止対策

- ・職員は、不織布マスクの着用と手指消毒を徹底し、子育て中の親子は検温を行うなど、体調確認を行いました。
- ・イベント日は電話予約が必要とし、利用者人数の制限を行って、密集・密接を減らしたり、室内の換気・加湿に気を付けました。(空間除菌脱臭機使用)
- ・遊具、玩具や室内の消毒、除菌をこまめに実施しました。(オゾン式保管庫など使用)
- ・施設内での食事は禁止とし、水分補給のお茶は、各自で持参して頂きました。

(6) 広報活動

- ・毎月、行事予定や活動内容など、Instagramや三恵会のホームページのブログに掲載しました。
- ・予定表(にこちゃんだより)を市役所・十全総合病院・川東の公民館4ヶ所に置かせて頂きました。
- ・市役所やイオンでのロビー展に参加したり、すまいるステーションとの連携により、事業所を紹介しました。
- ・保健センター(5ヶ月児健康相談)にて拠点周知啓発活動を5回(6月20日・21日、7月19日、9月19日、11月21日)行いました。

3. 研修報告

(1) 施設内研修

- ・職員全体会

職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵でのさまざまな研修や防火避難訓練などに参加しました。

(2) 施設外研修

- ・新居浜市地域子育て支援拠点事業連絡会に参加し、職員の資質向上の為の研修や職務・事業の振り返りを行いました。

4. 行事報告

- ・毎月実施 …○ボランティアによるお話会、ハーバリウム作り、親子でヨガ
○誕生会(誕生カード作成)、身体測定(成長記録カード作成)、助産師による相談会(妊娠中から産後、育児の事など)、作って遊ぼう(工作)、カレンダー作り
- ・随時実施 …○プチ出前講座(すまいるステーション)、木の球プール(大五木材)、館内の高齢者・障がい者との交流など

★子育て相談…保育士・理学療法士による育児相談を行いました。

主な行事内容

	つくって遊ぼう カレンダー作り	誕生会・お話会(回転木馬)・ハーバリウム作り 親子でヨガ・身体測定・助産師さんによる相談会
4月	かぶと こいのぼり (5月)	手遊び歌・絵本・手袋シアター・紙芝居・パネルシアター 折り紙・お絵描き・シール貼りこすり出し絵あそび・布絵本 ペーパープレート色あそび
5月	びっくりヘビくん あじさい&カタツムリ (6月)	絵本・手あそび歌・手ぶくろシアター・紙芝居・エプロンシ アター・折り紙・お絵描き・パネルシアター・切り紙 ★愛媛県立とべ動物園より移動動物園来館
6月	あじさいの花時計 アサガオ (7月)	★すまいるステーションプチ出前講座(歯みがき習慣につい て)・お絵描き・折り紙・紙芝居・パネルシアター・エプロ ンシアター・シール貼り・手あそび歌・絵本・わらべうたあ そび・しゃぼん玉あそび
7月	七夕笹飾り ひまわり (8月)	七夕飾りの作成・七夕まつり・エプロンシアター・折り紙 手あそび歌・お絵描き・パネルシアター・絵本・紙芝居
8月	コロコロ水槽 トンボ&コスモス (9月)	紙芝居・絵本・パネルシアター・うちわシアター・折り紙 手あそび歌・シール貼り・切り紙・親子ふれあいあそび ペープサート★館内の夏祭り
9月	指人形 (おはなしゆびさん) ハロウィン (10月)	絵本・手あそび歌・紙芝居・パネルシアター・折り紙 ペープサート・手袋シアター・シール貼り 親子ふれあいあそび・風船あそび★木の球プール来館
10月	太鼓台 ブドウ&リンゴ (11月)	手あそび歌・絵本・紙芝居・パネルシアター・手袋シアター 折り紙・太鼓あそび・ペープサート・お絵描き・親子ふれあ いあそび
11月	紙パックフリスビー ク リ ス マ ス リ ー ス (12月)	絵本・手あそび歌・パネルシアター・楽器あそび・手袋シア ター・シール貼り・折り紙・どんぐり木の実あそび・紙芝居・ 親子ふれあい遊び ★すまいるステーションプチ出前講座(おやつについて)
12月	クリスマスツリー 新年開運リース (1月)	手あそび歌・絵本・シール貼り・積木あそび・紙芝居・パネ ルシアター・折り紙★クリスマス会・手ぶくろシアター・楽 器あそび・お絵描き・サンタ&トナカイのパペット人形
1月	鬼のお面 鬼の親子 (2月)	絵本・紙芝居・手あそび歌・パネルシアター・伝承あそび・ お絵描き・親子ふれあい遊び・折り紙・シール貼り・スタン プ遊び・カンカン人形あそび
2月	雛飾りリース お雛さま (3月)	手あそび歌・絵本・リズムあそび・手袋シアター・パネルシ アター・お絵描き・折り紙・紙芝居・親子ふれあいあそび
3月	かざぐるま チューリップ (4月)	絵本・手袋シアター・手あそび歌・指人形で歌あそび 紙芝居・パネルシアター・折り紙・お絵描き・楽器あそび わらべうたあそび

5. 令和7年度の事業委託についての報告

- ・来年度の業務委託契約に向けて、3月に企画提案競技（プロポーザル）を行った結果、令和7年4月1日～令和8年3月31日迄の1年間の委託契約を締結し、子育て交流施設“すくすく”運営事業（拠点4日型）を実施することになりました。

その他

- ・令和6年度より、新居浜市福祉部こども局の“子育て支援課”が“こども未来課”に名称変更となりました。
- ・市役所“こども未来課”に提出している月別活動実績報告が、令和6年9月分より、様式変更となり、利用者の居住地の郵便番号、及び、母子手帳の番号も、記入することになりました。

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

令和6年度 事業報告

ユニット型地域密着型介護老人福祉施設うみかぜ

1. 経営方針

ユニットケアの基本として、ご利用者のその人らしさを追求し実践しました。ご利用者の生活パターンを把握し、食事、排泄介助はもちろん、個別の起床や臥床介助など、科学的介護に基づく個別ケアの推進を目標に取り組みました。ご利用者の生活に合わせたケアを行う為に、ユニット職員や各職種との話し合いと連携を図り、普段業務が多い時間帯やご利用者が不穏になりやすい時間帯に職員を多く配置するなど職場環境の改善も行いました。結果、施設全体でユニットケアを意識した話し合いや取り組みが出来たと考えます。

感染症予防は意識して行いましたが、それでもコロナ感染症やインフルエンザ感染症が起り、ご利用者の受入中止や職員の負担増大が起り、感染者が発生すると経営面や職員の精神面など全てに影響しました。その為、住友別子病院感染管理認定看護師に相談し、再度感染予防対策と感染発生時の対応の見直しを実施しました。

次に、職員の知識向上や意欲向上の為、研修や勉強会・ユニット会など計画していたもの思うように実施出来ず、来年度はリーダー会やユニット会等の会議の充実と積極的な研修参加を目指していきます。

最後に、施設経営においては、施設入所が年間目標稼働率 97.5%に対し、実績 97.6%、短期入所は年間目標稼働率 88%に対し、実績 73.7%という結果になりました。施設入所は重度化が進む中、年間 4 名の看取り介護、褥瘡や吸引などの医療的ケア及び感染症への対応を経て、目標を達成することができました。短期入所は、目標未達の理由は感染症によるものの他、利用者のニーズが多様化してきており、事業所間の競争の下、費用とケアの質のバランスが問われてきています。ご利用者や家族の施設に対する意識やイメージが変わってきた事を踏まえ、その背景を分析し、今後どうすれば選ばれる施設になるか、どこまで要望に応えられるのか、施設全体で検討し対応していきます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症の予防に努めました。発生した際は、感染症マニュアルやBCPに沿って、職員全員で感染症への対応を行いました。
- ② 計画的に防火訓練を実施しました。引き続き防災訓練の実施とBCPの見直しに取り組んでいきます。
- ③ ユニット会やリーダー会を通じて、ご利用者や家族の要望や現場での取り組みなど話し合いました。その際にLIFEの評価とPDCAサイクルを実施。エビデンスに基づく支援をしました。

(2)「確実な知識と技術」の修得

- ① ユニットケアリーダー研修に参加し、ユニットケアの理念や関わり方など学びました。
また、施設内でも認知症の研修を行い、認知症利用者への理解や知識を学びました。
- ② 感染症対策は見直しを継続し、研修会として感染管理専門看護師の講義を計画しています。
- ③ 職員全体会で研修会を行い知識・技術の向上と、施設の運営推進会議では、地域の代表者や利用者から貴重なご意見をいただき、施設運営の改善・向上に努めました。

(3)「堅実な経営」への取り組み

- ① 施設の収入を左右する短期入所が目標稼働率の達成には至らず。稼働率の確保に向けて課題の洗い出しと対策について協議していきます。
- ② 施設経営会で運営経費の報告をし、現場職員へ節約やコスト削減を啓発しました。
- ③ 施設で起こる苦情や要望について、施設全体で話し合い共有し、ご利用者・家族の声に真摯に対応しました。

1. 職員研修

(1) 施設内

- ・介護倫理 ・事故防止(2回) ・褥瘡予防 ・身体拘束 ・虐待防止(2回)
- ・感染症対策(2回) ・食中毒 ・認知症ケア(2回) ・看取りについて
- ・ハラスメント対策 ・BCP研修、訓練(2回)

(2) 施設外

- ・ユニットリーダー研修 ・人事考課者研修(法人内)
- ・特定給食施設等関係者研修会 ・フットケア研修(愛媛県地域密着型サービス協会)
- ・社会福祉法人経営青年会研修会

2. 施設行事

4月 花見	10月 太鼓台訪問
5月 ドライブ	11月 防火訓練
6月 恵海 神事	12月 クリスマス会
7月 七夕	1月 初詣
8月 バーベキュー	2月 節分
9月 敬老会	3月 ひな祭り

〈毎月の共通行事〉 ユニット活動(誕生日会、おやつ作り、個別外出)、生け花、移動図書館)

3. 地域交流、ボランティア

- ・太鼓台訪問 ・歌唱と楽器演奏(ボランティア慰問) ・めぐみカフェ
- ※感染症対策により、ボランティア等の受入は控えました。

4. その他

- ・運営推進会議(2か月に1回 年6回開催)
- 施設の事業活動の報告、勉強会及び地域や外部の方との意見交換の場としました。

グループホーム
かがやき

1. 経営方針

令和6年度かがやきでは、施設内での勉強会やカンファレンス等を通して、ご利用者のQOLの向上の為、認知症や疾病等への理解を深め、職員の介護技術や知識の向上に努めました。しかしながら感染症の流行等もあり、外部と連携した研修等を数多く行う事はできませんでした。また、4カ月に1度だった「かがやき便り」を2ヶ月に1度家族へ送付することにより、家族と施設でご利用者の情報共有を図り、信頼関係の構築に取り組みました。日常生活においては、ユニット活動や感染リスクを考慮した外出行事など、閉塞感を感じさせない楽しみの提供に配慮しました。

施設経営においては、年間の目標稼働率99%に対して、実績93.3%とマイナス5.7%で、目標を達成できませんでした。考えられる要因として、ご利用者の転倒等による急な入院や費用面からの他施設への転出、退所発生から次期入所までの空床期間が長くなったこと等が考えられます。また、引き続き光熱水費や物価高騰の影響も重なり、収支差額は減少し、経営面で厳しい1年となりました。年度末までに運営上の課題に対する改善に向けた取り組みについて、職員間で検討し実施しています。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

- ① 感染対策に留意するも、昨年度に引き続きコロナクラスターが発生してしまいました。感染後の対処を医療機関と連携し適切に行うことにより、1ユニットのみの感染で留めることができ、早期終息となりました。
- ② 各種センサー類を活用しながら転倒防止に努めました。また、「かがやき便り」を通じて、ご利用者の現状や転倒リスクについて家族と情報を密にし、状況の把握と認識の違いによるトラブルの防止に努めました。
- ③ 施設や社会環境の変化に合わせて事業継続計画を見直しし、計画的に防火訓練や感染症の訓練を行い、勉強会を通じ職員の理解を深めました。

(2)「確実な知識と技術」の修得

- ① 感染症の流行等により参加できなかった外部研修とは別に、積極的に施設内での勉強会や研修、カンファレンスの実施を促進しました。
- ② 定期的にユニット会やカンファレンスを実施し、職員間でのご利用者の状態把握に努め、事故防止やご利用者のADLの向上を図りました。
- ③ 適切な認知症ケアの対応を行う為の施設内外の研修に参加できる環境作りを、次

年度に向けて検討しました。

(3)「堅実な経営」への取り組み

- ① 稼働率の目標未達もあり事業収入は減少となりました。次年度は空床発生後の新規入所までの期間の短縮とご利用者の転倒防止等の安全の確保に努め、稼働率の安定と収入の増加を目指します。
- ② 人材育成の観点からも職員の役割分担を見直し、業務の効率性や円滑な稼働運営に資する取り組みを次年度に向けて協議しました。
- ③ 施設内会議を通じて無駄な経費等の点検と節約意識を持つように啓発しました。

3.職員研修

(1) 施設内

- ・介護倫理 ・事故防止(2回) ・褥瘡予防 ・身体拘束 ・虐待防止(2回)
- ・感染症対策(2回) ・食中毒 ・認知症ケア(2回) ・看取りについて
- ・ハラスメント対策 ・B C P研修、訓練(2回)

(2) 施設外

- ・フットケア研修(愛媛県地域密着型サービス協会) ・人事考課者研修(法人内)

4.施設行事

- | | |
|------------------|------------------------|
| 4月 花見 | 10月 太鼓台訪問 ドライブ(ひまわり) |
| 5月 ドライブ(鯉のぼり・薔薇) | 11月 ドライブ(薔薇)にぎり寿司パーティー |
| 6月 ドライブ(紫陽花) | 12月 クリスマス会・歌のボランティア訪問 |
| 7月 七夕 | 2月 節分 |
| 9月 敬老会 | 3月 ひな祭り ドライブ(桜) |
- <毎月の共通行事> ユニット活動(誕生日会・おやつ作り・個別外出) 生け花

5.地域交流

- ・太鼓台訪問 ・歌唱と楽器演奏(ボランティア慰問) ・めぐみカフェ
- ※感染症対策により、ボランティア等の受入は控えました。

6.その他

- ・運営推進会議(2か月に1回 年6回開催)
- 施設の事業活動の報告、勉強会及び地域や外部の方との意見交換の場としました。

兒童福祉施設
中萩保育園

令和6年度 事業報告

1、経営方針

子ども政策の基本方針「子どもまんなか社会」の実現に向けて様々な取り組みが進められている中、当園では、保育園の役割を認識しながら「みんなで子育て」を目標に、健全育成と保護者支援に努めました。子ども一人一人多様な育ちがある中で、個々のニーズに応じた保育、育ちを保障する丁寧な保育に取り組み、他の機関との連携、情報共有を図りながら養育力の低下が気になる保護者の支援を行いました。

また、「不適切な保育はなぜ起こるのか」「インクルーシブ保育」等の職員研修を通して「子どもの人権」「子どもの権利」について改めて考え振り返る機会となりました。乳幼児期は生涯にわたり人間形成（生きる力）の基礎を培う大切な時期です。今後も職員間で協働を図り「保育の質の向上」に努め、保育内容の充実に繋げていきたいと思ひます。

子どもの安全を守るために、園児を交えた防災訓練、不審者対策訓練、職員の救急講習等、様々な訓練を通して安全に対するスキルアップにも繋げました。食に関しては、食事状況調査票を用いて保護者との面談を実施。一人一人に応じた食材の形態、量、除去食等に配慮しながら取り組みました。今後も保育園の役割を考え、子ども達が安全で安心して過ごせる居場所づくりを行っていききたいと思ひます。

I C Tを導入し業務の効率化を図り負担軽減に繋がっています。I C Tを活用することにより、「人にしかできない、一人一人に寄り添うこと」をより手厚く、大事にしていきたいと思ひます。今後も業務改善に取り組み、働きやすい環境を整備しながら風通しの良い職場づくりを行い、職員の確保、育成、定着に繋げていきたいと思ひます。また、人口減少、物価高騰等、社会情勢を踏まえ、先を見据えた運営に取り組んでいきたいと思ひます。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

- ・朝の受け入れ時の視診、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
- ・毎日、保育室や廊下の消毒を行い、感染症予防に努めた。
- ・インフルエンザ、コロナウイルス等の感染症対策に努め、手洗い、室内換気の徹底に努めた。
- ・安全対策委員を設置、避難訓練や不審者侵入を想定した訓練を行い、危機管理意識を持つように努めた。
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができた。今後も生活の場を整備し、子どもの動きを想定することで安全保育に繋げていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・子どもの気持ちに共感することで子ども達が安心して生活ができるよう環境を整備した。今後も乳幼児期の成長発達を理解し、自己肯定感が育つようにしていきたい。
- ・基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず一人一人を大切に関わっていききたい。
- ・戸外遊び（雲梯、鉄棒等）を通して体力づくりに取り組んできた。
- ・児童センターやキラキラ公園まで散歩に行き、自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。
- ・年中、年長児は専門指導員による体操教室に取り組み、身体の使い方を学び運動機能の発達に繋がった。
- ・年長児は就学に向けて専門講師による硬筆に取り組んだ。文字に対する興味を持ち熱心に取り組んでいた。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・年2回、十全総合病院小児科（長谷川 Dr）、藤田歯科クリニック（藤田 Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋がっている。
- ・発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋がっている。
- ・発達支援課による巡回相談、就学相談を受け、支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができ、クラスの一員として協調できるように保育している。
- ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。情報交換を行った。就学に向けての引き継ぎ、支援を必要とする子のサポートファイル作成等、小学校との連携を取っている。子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。
*各機関との連携は今後も大切にしていきたい。
- ・上部児童センター運営協議会に参加、子どもを中心に地域との交流を深め、健全育成に係ることができるよう意見交換を行った。
- ・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を取っている。

④危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い、子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。6年度は施設強化加算の申請を行い発電機、備蓄品等を購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。掲示板に避難経路を掲示し、保護者にも知らせている。
- ・アルソックに依頼し防犯対策に努めている。
*今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで、防災、防犯意識を高めていきたい。

(2)「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

- ・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。また、保育協議会主催のキャリアアップ研修を受け知識を深めることに繋げた。
- ・自己評価をすることで自分自身の反省評価を行い、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がる保育を目指してきた。今後も職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていきたい。
- *日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。
- *今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していけるよう取り組んでいきたい。

②専門性の充実

- ・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。
- ・全体計画に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。
- ・健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。また、職員に嘔吐物処理の仕方について講習を行い、職員間での周知を図った。
- ・栄養士を中心に保育士、調理員が話し合いながら食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）を行った。また、アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供を行った。
- *毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

(3)「堅実な経営」の実践

- ・0歳児の途中入所2名を受け入れることができ安定した経営に繋がった。
- ・チーム加算、3歳児加算等、加算申請をすることで安定した経営に繋がった。
- ・定期的に保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険個所の修繕を随時行った。
- ・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対してのやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。
- ・職員間で備品チェックを行いながら無駄をなくすよう取り組んできた。

3、研修実績

(1) 施設内

職員会（クラスの状況報告、気になる子について、給食検討、けがの報告等）、
安全対策委員会、先任者会、主任会

(2) 施設外

キャリアアップ研修（リモート研修）

保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）

日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育

三恵会本部主催の研修

4、行事实績（年間）

4月 入園式（中止）、年長児発音検査、園児健康診断、園児歯科検診

5月 遠足、

6月 わくわくお楽しみ会ごっこ、プール開き

7月 七夕集会、就学相談

8月 プール大会（バイキング給食）

9月 敬老の日ハガキ投函

10月 運動会、お祭り集会、交通安全教室、園児健康診断、園児歯科検診

11月 遠足、火遊び防止教室、新入园児申請受付

12月 クリスマス会、在園児家庭現況届提出、巡回相談

1月 もうすぐ1年生撮影

2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）、巡回相談（2回目）

3月 ひな祭り集会、お別れ遠足、お別れ会、卒園式

＊毎月実施…誕生会（1月より白山神社宮司さんの御祈祷）、異年齢児交流、
食育活動、避難訓練、身体測定など

5、地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流状況

(2) 実習生受け入れ

専門大学（2年生）

(3) 体験学習の受け入れ

＊中萩中学校2年生

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

令和6年度 事業報告

養護老人ホーム新居浜市立慈光園

1. 運営方針

老人福祉法に基づく養護老人ホームの使命として、環境上及び経済上の理由により在宅において生活することが困難な方に対し、心身の健康を保つとともに生きがいのある日常生活が送れるよう生活習慣、個性、傷病など個々の理解に努め、身体的なニーズだけにとらわれず精神的や環境的なニーズを踏まえたかかわりに努めました。

また、暮らしのケアを中心に試みながら園内における各種行事に力を注ぎ、日常生活で寄り添えば出来ることを最大に尊重し、出来る能力を奪わず個々の自立支援に向けた意欲やプライドを大切にしながら支援いたしました。

感染症対策では、施設内での蔓延の防止、感染対策の徹底、持ち込み物への注意を行いながら注意喚起を促し感染症対策を実施いたしました。

このような中で、エコキュートの故障により約1ヶ月の入浴が使用出来ない事態が発生し、運営上で事業の妨害を受けた年となり、今後においても建築物の経年劣化の問題は深刻となっており指定管理者として市町村と連携をとりながら未然防止に努める事も課題となりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1)「誠実な福祉」の実践

- ①利用者個々の状態に応じて個別処遇計画に係るPDCAサイクルに取り組み実践に努めました。
- ②利用者朝礼において、軽体操を通して健康維持を図りました。
- ③園内におけるクラブ活動や他の団体が主催するイベント等へ出展、創作活動などを推進し、生活意識の向上に努めました。
- ④庭木の手入れ、水やり、草引き等の共同作業等、作業を通して自立した生活を促すよう努めました。
- ⑤嗜好調査の実施により季節感や彩に配慮した食事提供に努め、衛生管理と食品管理を適正に行いました。
- ⑥園近隣における清掃活動を実施するとともに、金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守りボランティア活動を実施しました。
- ⑦自然災害時における一般避難所開設を行いました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①地域包括ケアシステムの構築に向けた諸施策の整備や編成が進む中で関係機関等との連携及び情報の共有をはかり、処遇困難な利用者への対応に努めました。
 - ②老人福祉施設協議会等が開催する各種研修会に積極的に参加しました。
- 又、施設内においては内部研修を定例的に実施し知識と技術の向上に努めました。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①毎月の予算執行管理を確実にするとともに、財務諸表の点検、月々の変動、経年変化、前年同月比較を実施し経営管理を行いました。
- ②物品の適正な在庫管理に努め、購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。
- ③デマンド量の監視により電気使用状況を把握し抑制に努めるとともに、利用者に節電を呼び掛け、電気料金の減少に努めました。
- ④ストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルスケアを行いました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ①職員全体会（月1回）、主任会（月1回）
- ②AED講習、BCP（感染症、自然災害研修）
- ③身体虐待研修会

(2) 施設外研修

- ①老人福祉施設協議会主催の研修会
- ②三恵会法人本部主催の研修会

4. 行事实績

年間を通じて、新型コロナウイルス感染症拡張の為、当初の計画に対し外出行事は規模を縮小しての実施となりましたが、園内におけるクラブ活動等においては予定通り実施する事ができました。

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

愛媛銀行・新居浜支店ロビー展 展示（利用者の作品） 太鼓台訪問
地域清掃・金栄見守り隊・生き生き幸せフェスティバル展示（利用者の作品）
金栄小学校「町たんけん」（金栄小学校2年生・保護者等）

(2) ボランティア受入

絵手紙クラブ・お話会クラブ・動揺クラブ